



写真:空高く噴気を上げる硫黄山(撮影:平成30年11月5日)

「硫黄山」

活きている火山

ここ数年、火山活動が活発になっ
 ている硫黄山。火山活動といっ
 ても火を噴いているわけではなく、
 火口や噴出孔から大量の水蒸気を出し
 続けている状態です。

「火山の博物館」とも呼ばれる霧島山は20以上の火山が集まってきています。硫黄山は16から17世紀の噴火で形成され、霧島山の中で最も若い火山です。周囲は噴火による噴出物が堆積し、栄養の少ない砂礫地帯はミヤマキリシマが生息するには最適な土地となりました。開花の時期にはつつじヶ丘は紫色に染まり、多くの観光客が楽しめます。以前は登山者が下山後、硫黄山から流れる温泉に入る最高にぜいたくな体験もできました。当時利用されていた石組みの風呂釜が現在も残されています。マイナスイメージが付きまとう「噴火」や「火山」ですが、古くから霧島山周辺は噴火を体験し、火山と共に生きていた歴史があります。正しく恐れ、備えをし、大地のエネルギーを感じてみましょう。
 (文/えびのエコミュージアムセンター)

硫黄山

活火山である霧島火山において最も新しい火山で、種類は溶岩ドームに分類される。韓国岳の北西、えびの高原に位置する。